

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist



歯質の保存性を考慮した 最小限の審美修復

—前・臼歯用ナノハイブリッドレジン「MIフィル」を用いて—

長野県松本市開業 コイデ歯科
歯科医師

小出 哲

はじめに

近年、MIの概念の普及により、コンポジットレジン修復の需要が急速に高まりつつある。

患者サイドとすれば、自分の歯を少しでも長く持たせたいと思うのは当然のことであり、歯科医もそのための努力を惜しんではならない。我々歯科医は、自分の治療をより長く持たせたいため、予知性にばかり目が向きがちであるが、これからはいかに歯

を残すかという、保存性が問われる時代になってきていると思うのは私だけであろうか。また、歯牙を最大限保存することにより、未知なる治療への可能性を残すことができる。

歯科治療は、あくまで外科処置であり、決して後戻りはできないため安易に歯を削ることは慎まなければならない。歯を極力削らない治療を実践するためにはコンポジット

レジンが必要不可欠な材料である。なお、当院においては、カールツァイス社のマイクロスコープを用いることにより、歯質の保存性を高めるように努めている。

今回、新たに開発された高強度ナノハイブリッドタイプのコンポジットレジン「MIフィル」をメインとした、症例をご紹介したいと思います。先生方の臨床に少しでも役に立つヒントがあれば幸いである。

